ＥＮＥＯＳ株式会社

ENEOS グループは、操業・生産拠点が周辺環境に影響を与える可能性がある事業特性から、生物多様性の保全を重要なテーマと考えており、これを ENEOS グループ行動基準に定めています。
また、全国に生産拠点がある ENEOS グループ傘下の ENEOS（株）では、「生物多様性ガイドライン」を定めています。ここでは ENEOS（株）の製油所における活動として、根岸製油所の緑地保全活動と堺製油所の藻場創出活動について紹介します。

根岸製油所：工場の中の里山

横浜市に所在する根岸製油所には約 6 万 m2 の中央緑地があり、その中に 3 つの池があります。
生物多様性に配慮した緑地整備を始めたのは、樹木･環境に関する NPO 法人より緑地の生物モニタリングの誘いを受けたことがきっかけでした。

根岸製油所は、東京湾に面し、周囲を三渓園、根岸森林公園などの緑地に囲まれ、海と山の自然が交差する地域に位置しています。そこで、里山管理の手法を用いて環境整備を行い、地域生態系ネットワークの拠点の一つとするという､「工場の中の里山」を活動のコンセプトとしました。
最初の 3 年間は、主としてハード面の整備を行いました。樹木の除間伐、ツタ植物の葛の伐採および下草刈り等により日当たりおよび風通しの改善を図り、緑地を活性化して生物多様性を高める整備に移行しました。

2019 年度以降は、この中央緑地を利用した社員・地域コミュニティとの交流活動というソフト面の活動を強化しています。環境教育活動として、毎年 6 月、所員等参加の自然観察会を実施し、地域住民の方々への製油所見学会の中にも中央緑地の見学を組み込むようにしています。

2021 年度からは同市の横浜市立大学の協力で「まち保育」的な手法を取り入れ、当所社員家族参加の製油所見学会にて、森やいきものと親しむイベントを実施しています。

これら良好な生態系ネットワークの形成等の活動が評価され、2019 年度に ABINC 認証を取得し､2023 年 10 月には日本最初の自然共生サイトの 1 つとして認定されています。

堺製油所：護岸の藻場創出

大阪湾は閉鎖性海域で、湾奥部は陸域から流入する窒素・燐等の栄養塩が滞留しやすく､このため赤潮の発生等、貧酸素で魚介類が棲みにくい海域となっています。

堺製油所は、大阪湾奥部に位置し、大阪府からの相談をきっかけに、2022 年度から護岸部の藻場創出活動に取り組み始めました。

藻場の創出により、栄養塩の吸収と酸素の供給による水質改善、魚介類の産卵・成育場の増加、藻類の光合成を通じたブルーカーボンの蓄積等、多面的な効果が期待できます。

堺製油所は、2024 年から「大阪湾ブルーカーボン生態系アライアンス(MOBA)：大阪府と兵庫県が設立」に参加しており、今後も近隣団体等とも連携し、本活動に取り組んでいきます。